

事務事業評価票

様式第2号

担当課	総務部	八坂支所	課	総務	係	事務事業No.	121115
事務事業名	八坂地域振興事業					会計	一般会計
まちづくりのテーマ	第5 市民の参画と協働でつくるまち					款	2 項 1 目 11
施策目標	市民の参画・協働と市民の視点に立った市政の推進						
施策項目	過疎地域での地域づくりの推進						
前期計画掲載頁	93	頁	個別計画	大田市過疎地域自立促進計画			16~18 頁
事業期間	平成 28 年	～	平成 32 年	根拠法令・要綱等 過疎地域自立促進特別措置法			

事業の目的	定住人口が減少し、少子高齢化が急速に進むなか、住民が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域活力の持続性を高め、活気と魅力あふれる地域づくりを推進する。							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくり委員会、地域づくり協議会を開催し、地域内の振興策や諸問題への対応を検討する。 地域振興バスを運行し、ふれあいバス路線区域外の交通弱者の足の確保を図る。また、診療所の送迎診療、たけのこ保育園の通園バスを運行し、施設利用者の利便性の向上と交通弱者の足の確保を図る。 地域づくり協議会、八坂音頭保存会等へ補助金を交付し、地域振興と特色ある地域活動団体の支援を行う。 過疎地域での起業支援や過疎地域への移住者(空き家入居者)への補助を行う。 							
事業費	財源内訳	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成30年度		
		総事業費(決算額)	23,987,043 円	14,441,892 円	11,857,556 円			
		国庫支出金	円	円	円			
		県支出金	円	円	円			
		起債	円	円	円			
		その他財源	円	円	円			
一般財源	23,987,043 円	14,441,892 円	11,857,556 円					
活動指標	指標名	単位	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	前年度(H30) 目標値	達成率 (%)	次年度(R元) 目標値
	① 地域振興バスの運行	日	295	292	290	-		293
	② 送迎診療の実施	回	-	70	70	-		70
	③ 通園バスの運行	回	-	227	226	-		220
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度(H30)	達成率	次年度(R元)
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	① 地域振興バス利用者数	人	1,964	1,762	1,556	-		1,500
	② 送迎診療の利用者数	人	-	464	476	-		480
	③							
	2. 数値で表せない効果	(指標) 地域づくり協議会活動を支援し、地域の振興策や課題などについて検討することにより、きめ細やかでスムーズな対応が図られている。						

【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
点数	3	3	3	3	2	3	継続	17 / 18		

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について(目的に対する現状など)	地域づくり協議会などを中心に、地域の活性化に対するソフト事業が活発に展開されているが、少子高齢化が進むなかで、限界集落と言われる地域コミュニティが成り立たない地区が出始めている。このため、自治会役員などの担い手確保に困難な状況があり、今後、自治会の組織の見直しや再編などが課題となっている。また、高齢化が進む中、交通弱者の移動手段として運行している地域振興車輛の乗車場所が、地区によっては遠い場所にあることなどから、高齢者の利用が難しい状況となっており、見直しが必要となっている。
改善の方法等(上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容)	地域振興支援員が各地区を廻り聞き取りを行った地域の課題や要望等を整理して、今後の地域づくりに繋げていく。地域振興検討会議において進めている「やさかボランティア隊」(仮称)の組織化と活動を支援し、地域間や世代間交流を図りながら1ターン者へも積極的に声掛けを行い、地域の課題解決と活動の支援を行っていく。

事務事業評価票

担当課	総務部	八坂支所	課	総務・産業建設	係	事務事業No.	121118				
事務事業名	八坂定住促進事業					会計	一般会計				
まちづくりのテーマ	第2 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち					款	2	項	1	目	11
施策目標	移住・定住促進策等の充実強化										
施策項目	過疎地域における移住・定住促進										
前期計画登載頁	60		頁	個別計画					頁		
事業期間	平成	24	年	～	平成		年	根拠法令・要綱等			

事業の目的	定住人口が減少し少子高齢化が急速に進むなか、地域活力の維持と継続を図るため、拠点集落にI・Uターン者等の定住を促進させるための定住促進住宅の建設整備を行い、地域に密着した定住促進対策を進める。									
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度 住宅建設3棟（切久保2・矢下1） 平成28年度 住宅建設2棟（野平） 令和2年度 住宅建設2棟（栃沢2）・・・予定 平成27年度 住宅建設2棟（野平） 平成29年度 住宅建設2棟（矢下2） 過疎地域定住促進奨励金・過疎地域住宅新築資金等利子補給金・過疎地域就職促進奨励金 									
事業費	財源内訳	年度	平成28年度		平成29年度		平成30年度			
		総事業費（決算額）	49,250,992 円		41,239,064 円		0 円			
		国庫支出金	円		円		円			
		県支出金	円		円		円			
		起債	35,700,000 円		30,700,000 円		円			
		その他財源	円		円		円			
一般財源	13,550,992 円		10,539,064 円		0 円					
活動指標	指標名		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）	
				実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	定住促進住宅	戸	23	25	25	0		0	
	②									
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）		
	指標名		単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	入居世帯増	世帯	2	1	0	1	0.0%	1	
	②	入居者増数	人	5	4	0	2	0.0%	2	
	③									
	2. 数値で表せない効果		（指標 ） 移住者の自治会活動などへの参加により、集落機能の維持や活性化につながる。							

【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
点数	3	3	3	3	2	3		18		

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）	<p>未入居者がある既存住宅については、引き続き定住促進係等との連携による入居者確保に努める。今後の住宅建設については、地域の受け入れ要望のほか、移住者の感想、移住希望者のニーズや動向を把握し、建設時期等の検討を行う必要がある。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容）	<p>全ての集落内に住宅を新築することは不可能であるため、受け入れ態勢が整っている地域自治振興会内の拠点となる集落の中で、集落強化が期待できる集落に、既存の空き家住宅の活用や、移住者のニーズ等を考慮して住宅の整備を検討して行く。入居者募集については、宅地の確保、造成が出来た段階で広報を行い、周知期間を確保したい。</p>

事務事業評価票

様式第2号

担当課	総務部	八坂支所	課	産業建設	係	事務事業No.	121119			
事務事業名	明日香荘管理運営費				会計	一般会計				
まちづくりのテーマ	第2 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち				款	2	項	1	目	11
施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進									
施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進									
前期計画掲載頁	56		頁	個別計画						頁
事業期間	平成	27	年	～	平成		年	根拠法令・要綱等		

事業の目的	市民の健康増進に資するための保養施設及び観光施設として、地域間交流の促進、観光の振興を通して、地域の活性化を図るため、施設の適正な管理を行うことにより、利用者の利便性を図る。									
事業内容	施設及び設備等の修繕については、公共施設総合管理計画に基づき、指定管理者と協議をしながら計画的に行うとともに、明日香荘の適正な管理運営を行う。									
事業費	年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度			
	総事業費（決算額）		57,453,596 円		18,472,424 円		16,009,696 円			
	財源内訳	国庫支出金		円		円		円		
		県支出金		円		円		円		
		起債		円		円		円		
		その他財源		円		円		円		
一般財源		57,453,596 円		18,472,424 円		16,009,696 円				
活動指標	指標名		単位	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	前年度（H30） 目標値	達成率 （%）	次年度（R元） 目標値	
	①	イベント等開催	回	13	8	8	10	80.0%	8	
	②									
	③									
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）		
	指標名		単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	利用者数	人	30,642	28,351	28,816	30,000	96.1%	30,000	
	②									
	③									
2. 数値で表せない効果 （指標 ）指定管理者と協議し、施設及び設備等の改修を行い、施設利用者の利便性を図るとともに、誘客に努めた。										

【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である			
点数	3	3	3	3	2	3		18		

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）									
施設は、最も新しい施設でも平成16年に建築し、古いものでは築29年を経過していることから、経年劣化による突発的な緊急修繕の対応に苦慮している。									
改善の方法等（上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容）									
令和3年度からの次期指定管理者選定に向けて、現指定管理者との協議や地元住民からの意見聴取等を行う。定期的な施設巡回と指定管理者との連携を図り、施設の設置目的に基づいた施設利用者の利便性、健全な施設運営を図るとともに計画的な施設修繕による維持管理を行う。									

事務事業評価票

様式第2号

担当課	総務部	八坂支所	課	産業建設	係	事務事業No.	17138				
事務事業名	八坂観光施設管理費					会計	一般会計				
まちづくりのテーマ	第2 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち					款	7	項	1	目	3
施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進										
施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進										
前期計画掲載頁	56		頁	個別計画							
事業期間	平成	18	年	～	平成		年	根拠法令・要綱等			

事業の目的	施設利用者が快適に利用できるよう、施設及び設備等の維持管理に努める。									
事業内容	鷹狩山展望施設・ふるさと体験館・さざなみについては、指定管理者制度を導入し、効率的な運営を行う。経年劣化により老朽化した設備や備品等は、公共施設総合管理計画に基づき計画的に修繕等を行い有効利用を図る。									
事業費	財源内訳	年度	平成28年度		平成29年度		平成30年度			
		総事業費（決算額）	9,349,664 円		7,829,515 円		6,493,750 円			
		国庫支出金	円		円		円			
		県支出金	円		円		円			
		起債	円		円		円			
		その他財源	366,562 円		479,790 円		345,070 円			
		一般財源		8,983,102 円		7,349,725 円		6,148,680 円		
活動指標	指標名		単位	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	前年度（H30） 目標値	達成率 （%）	次年度（R元） 目標値	
	①	展望台イベント開催	回	1	2	3	7	42.9%	7	
	②	体験館イベント開催	回	2	2	2	2	100.0%	2	
	③	さざなみイベント開催	回	1	1	2	4	50.0%	4	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度（H30）	達成率	次年度（R元）		
	指標名		単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	展望台利用者数	人	4,284	12,716	5,877	5,000	117.5%	6,000	
	②	体験館利用者数	人	4,481	6,404	4,545	5,000	90.9%	5,000	
	③	さざなみ利用者数	人	47,360	28,677	29,981	30,000	99.9%	30,000	
	2. 数値で表せない効果		（指標 ）指定管理や施設管理受託者と協議し、施設及び設備等の改修を行い、施設利用者の利便性を図るとともに、誘客に努めた。							

【事業の評価と今後の方向性】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	普通	普通	重複なし	普通	適正である			
点数	3	2	2	3	2	3		18		

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）									
各施設とも、建設後15年以上を経過しており、経年劣化による修繕箇所が増えている。さらに突発的な緊急修繕への対応に苦慮している。									
改善の方法等（上記の課題をふまえて令和元年度以降に実施する具体的な改善の内容）									
各施設、定期的な施設巡回や指定管理者及び施設管理受託者との連携を図りながら、計画的な修繕等の維持管理を行う。また、次期指定管理委託更新までに、施設利用者の動向を踏まえ、地元地区の意向も聞き、指定管理者との意見交換を行い業務仕様書の見直しを行う。									